

I . 中途失明者の点字触読指導マニュアル

指導を始める前に

本書の指導マニュアルを使って指導を始める前に、前提となる事柄について以下に記します。必ず一読してから指導を始めてください。

1. 対象者

本書の指導マニュアルは、中途失明者（一旦普通文字（墨字）を獲得した後に視覚障害となった者で、普通文字の使用が困難な者）を対象に作成したものです。

2. 指導者の位置

点字学習者と指導者は向き合って座ります。（写真参照）正面から見ると学習者の指の向き、動きがよくわかるからです。当然のことですが、指導者は凸面を逆さまに読める能力が求められます。

【学習者】



【指導者】

3. 触読の指導方法

① 垂直水平運動による触読

第1段目が点（ㄟ）か横棒（ㄣ）か、この区別がつけば「点字は読める！」といっても過言ではありません。

指をできるだけ立てて1段ずつ下において、点か棒かを確かめて形を捉えるようにします。一番下（3段目）までいったら、そのまま上に戻り、右に移動し、また、1段ずつ下に降りて、次の文字の形をとらえるように指導します。



指導の実際：CD-ROM【Video 1】参照

② 形をとらえる指導

点字は6つの点の組み合わせでできていますが、点の組み合わせを覚えさせる必要はありません。覚えるのは、形と名前の結びつきです。形を捉える指導をします。

③ 隙間をとらえる指導

「点字は凸の点を触って読むもの」という意識を誰もが持っているますが、実は、「点と点の隙間」こそが大事であり、隙間を読むのが点の集合の認識の手がかりとなります。「ウ (ㄥ)」と「メ (ㄩ)」の間には隙間は感じませんが、「ア (ㄐ)」と「メ (ㄩ)」の間には隙間を感じます。学習者に点の位置を言っては練習になりません。この隙間の有無を手がかりに、点の集合を認識するよう指導します。

④ 違いをとらえる指導

新しい文字の認識についても、一点一点、点が捉えられなくても、今まで出てきた文字との違いが分かればよいのです。違いを区別することで認識していけば良いという姿勢で指導します。

⑤ 一文字一文字を確認しながら移動する指導

文字間の移動はとても重要です。一文字一文字の移動が確実にできていないと、「一文字空けなら読めるが、連続しているのは読めない」という読み方になってしまいます。一文字を読める人が二文字、三文字の言葉が読めないということのないように、きちんとした指送りができるように指導します。この一文字分を右にスライドすることがなかなか難しいのです。指導者のすることは、この一文字分の移動について、「行き過ぎた、足りない、指が斜めになっている」とフィードバックすることです。

⑥ 推測を働かせて読む指導

中途失明者は今までの生活の中で言葉を知っていますし、日本語の文章の経験も豊富ですので、推測を働かせて、点字を半分は頭で読むつもりで取り組むことが大切です。

一文字を読むのに一点をおろそかにせず、一語を読むに一文字をおろそかにせず、という読み方は労ばかり多い読み方です。触覚の鈍さを補う最大の武器は推測読みなのです。

晴眼者の読書も、一点一点、一文字一語を読んでいるわけではありません。斜め読みという読み方さえあります。そのことを思い出させ積極的に推測読みを取り入れるよう指導します。

もちろん、一文字、一点をおろそかにしているわけではなく「読めた」という自信をつけたいからです。それが点字触読のモチベーションにつながり、次第に読速度が向上し、正確さも身に付いてきます。初期指導では、大切なことだと思います。

4. 読む指について

読める楽しみを覚えることが大切であると考えますので、まず、1本の指で読めること。どの指で読むか、右人差指か、左人差指かという問題については、読み書きを同時に行う場合が少なくないことや、右利きの人が多いこともあり、今まで書いていた書きを右手、読みを左手で行うように指導する場合があります。ただし、左手指にマヒや、切断、裂傷などの後遺症があれば、この限りではなく、読みが中心の生活であれば、左指に固執する必要もありません。読みやすい指で読めば良いのではないのでしょうか。

5. 点字を読む速さについて

点字を読む速さは、個人差があります。はじめは、点字1ページ（墨字で300字くらい）を小1時間かかって読めるスピード、これを30分以内、15分、10分、5分と速く読めるように練習をしていくわけです。中高年の中途失明者では半年から1年の訓練で、1ページ10分から5分を目標にすると良いでしょう。

また、垂直、水平運動による点字学習は、速読には向きません。指が目になって、点字を読む力が向上したら、垂直、水平運動の読み方から、できるだけ垂直運動をしないように心がけ、水平運動で読むようにすると良いでしょう。経験上、片面書き1頁8分あたりから切りかえると5分を切って読めるようになります。

6. 教材について

① 『1文字教材』と『2文字教材』

毎日、または週に何回か訓練を受けられるリハビリテーション施設と、盲学校やボランティアによる指導などでは、指導回数が異なります。週1回が当然であったり、隔週であったりする場合もあるので、教材は、新出文字1頁1文字の『1文字教材』と、1頁2文字の『2文字教材』の2種類を用意しました。

回数が取れないケースでは、2文字教材を使って全体の練習期間を短縮することを考えたり、慣れないうちは1文字教材でゆっくり触れて、左右反対、上下回転などが出てくる半分あたりから、2文字教材を利用して後半を急ぐとか、1文字教材は宿題にするとか、さまざまな利用を考えていくと良いでしょう。

② 各ステップの留意事項

- ・ステップと回数は必ずしも一致しません。1ステップを1回で進むか、2回で終わるか、4回かけるか、また、教材1頁を全行練習するか、何行かとばすか等も、学習者に合わせて判断します。
- ・触読練習は、指先の疲労により点がわからなくなったり、精神的にも疲労感が大きいので、適宜休憩を入れるようにします。
- ・「適宜休憩を入れる」ということと相反するようなことにもなりますが、点字に触れる時間を出来るだけ長くすることも重要です。少しずつ負荷の時間を長くして、指先が点を捉えられる時間を長くするよう心がけます。

点字触読 内容一覧・記録表 氏名

【ステップ1】		実施年月日
触知覚評価	点字の概要説明、触り方について	
行たどり (教材1)	行の説明、たどり方	
行たどり (教材2)	分かち書きのある行たどり	
点たどり (教材3)	点たどり、点の軌跡	
文字	め (ㇿ) (教材4)	文字触読、8文字
	う (ㇻ) (教材5)	
	れ (ㇾ) (教材6)	
	ふ (ㇷ) (教材7)	
	に (ㇼ) (教材8)	
	あ (ㇰ) (教材9)	
	い (ㇱ) (教材10)	
	な (ㇺ) (教材11)	
【ステップ2】		
うれめふあいにな (ㇿㇻㇾㇷㇼㇰㇱㇺ) 復習 (教材12)	8文字の復習、単語、文章読み	
た (ㇹ) (教材13) (13)	ㇿとの比較、真ん中の点が右に	
き (ㇰ) (教材14)	ㇿとの比較、下段の点が右に	
す (ㇸ) (教材15) (14)	右優先文字、上横棒 (2点) を確認する	
り (ㇲ) (教材16)	上2段、右上欠けて不安定	
【ステップ3】		
さ (ㇺ) (教材17) (15)	ㇿとの比較、下2点が右。ㇿㇻㇾの区別	
け (ㇰ) (教材18)	右下の離れた点に注目	
え (ㇺ) (教材19) (16)	ㇿとㇿの結合、上2段で右下欠ける	
み (ㇻ) (教材20)	右上のない字 ㇿ	
【ステップ4】		
は (ㇰ) (教材21) (17)	上左点、下横棒	
こ (ㇰ) (教材22)	右から始まる最初の文字、隙間に注意	
ら (ㇼ) (教材23) (18)	上2段、小さい斜め、ㇿとの混同注意	
ち (ㇼ) (教材24)	右向きの3角形、とりにくい形	
【ステップ5】		
し (ㇼ) (教材25) (19)	左から右へ、真ん中横棒、ㇿやㇿとの混同注意	
く (ㇼ) (教材26)	上横棒、下右点	
つ (ㇼ) (教材27) (20)	上横棒、右、左 「つ」の形は「ㇿ」	
お (ㇼ) (教材28)	右からの小さい斜め アイウエオ完成	
【ステップ6】		
の (ㇼ) (教材29) (21)	右から 「～の～」という文章が作れるようになる	
ろ (ㇼ) (教材30)	上2段、左上欠ける、ㇿㇻㇾと混同注意	
か (ㇼ) (教材31) (22)	左から右への大きい斜め、ㇿと混同注意	
も (ㇼ) (教材32)	左上欠ける	
【ステップ7】		
ま (ㇼ) (教材33) (23)	左、右、横棒 ㇿやㇿとの混同注意	
ん (ㇼ) (教材34)	上段なし、下2段	
と (ㇼ) (教材35) (24)	右から左への真ん中横棒、ㇿと混同注意	
ぬ (ㇼ) (教材36)	上段横棒、下段左下	

【ステップ8】		実施年月日
せ (ㄥ) (教材37) (25)	左下欠ける	
る (ㄥ) (教材38)	上2段、左下欠ける ㄥㄥㄥㄥㄥㄥ との混同注意	
ね (ㄥ) (教材39) (26)	左全部の右上、ㄥの逆向き	
へ (ㄥ) (教材40)	右真ん中欠ける	
【ステップ9】		
わ (ㄥ) (教材41) (27)	1点、ㄥ下がり。かなづかいの違い	
ひ (ㄥ) (教材42)	左、左、横棒、真っ直ぐりて右	
を (ㄥ) (教材43) (28)	ㄥの下がり、上段の点のないㄥㄥㄥ	
そ (ㄥ) (教材44)	左真ん中に右全部、ㄥの逆	
【ステップ10】		
ゆ (ㄥ) (教材45) (29)	右上、下段横棒	
て (ㄥ) (教材46)	左下欠ける	
よ (ㄥ) (教材47) (30)	右、右、左。ㄥとの違い	
む (ㄥ) (教材48)	左真ん中欠ける	
【ステップ11】		
ほ (ㄥ) (教材49) (31)	右、左、下横棒	
や (ㄥ) (教材50)	右、左下、右上の点を確実に	
っ (ㄥ) (教材51) (32)	左真ん中、小さいツ 促音	
ー (ㄥ) (教材52)	中段の横棒、長音符	
【ステップ12】		
読み方 (教材53) (33)	清音だけの文章読み、句点の紹介	

【ステップ1】

ステップ1は盛りだくさんの内容になっています。

個々の説明を簡潔にして、できれば1回で終わるようにします。

1回で終わることによって、「難しい」と思っていた点字への挑戦の意欲、文字を読める喜びを味わえる内容でもあり、自信に繋がるステップでもあります。

1. 評価

Point 1

最初に点を自由に触ってもらい、評価を行います。

1点 (⠠) と縦2点 (⠠⠠)、1点 (⠠) と縦3点 (⠠⠠⠠)、1点 (⠠) と中抜け2点 (⠠⠠) の違い、1点 (⠠) と横2点 (⠠⠠) (横棒1段)、横棒1段 (⠠⠠) と2段 (⠠⠠⠠)、横棒1段 (⠠⠠) と3段 (⠠⠠⠠)、横棒1段 (⠠⠠) と中抜け2段 (⠠⠠) の違いの弁別がどの程度にできるかを評価します。

区別ができたなら、「点字は読めるようになります」と励まします。

Point 2

各行の行末まで全て触らせる必要はありません。

Point 3

自由に触ってもらうと、大方は右指で触りますので、何行か触った後で、左人差し指で触ってもらうように促します。

Point 4

指の動かし方もさまざまになりますが、指を少したてて、自分のお腹の方へ垂直になるように、上から下に引いて判断するよう指示します。指先をぐるぐる廻したり、右や左に傾けて狭いところで触ったりしますが、指先の中央に点を入れるように指示します。

Point 5

Point 1の8パターンを触ったところで、点字の概要について話します。

内容：文字の歴史、点字の誕生、日本点字、点字がな、点字と墨字、読みと書き(右手書き、左手読み、指先の状況等によって左右の読み指は選択する)、触知覚と触運動(点を捉え、位置を確認し名前をつける、一文字ずつ文字を追う)など。

Point 6

教材の8行目～9行目は、一つずつ点が増えてくる感じを、10行目～11行目は、同じく一つずつ点が増えますが、文字が連続している時の捉えにくさを感じてもらえるように作成してあります。文字が連続している場合は、一文字ずつ追うことが大切であることを指導します。

Point 7

教材の12行目以降は必ずしも実施する必要はありませんが、触らせる場合には、違った感じの文字が出てくるまで「メ (⠠⠠⠠)」や「ニ (⠠⠠)」がいくつ出てきたかに注意させるようにします。



指導の実際：CD-ROM【Video 2】参照

2. 教材1 行たどり (1)

Point 1 「め (⦿)」の連続をたどり、行たどりの練習をします。行たどりの練習ですので、ここでは、指を縦に動かさず、そのまま横に動かし、行替えのコツを学びます。

Point 2 行頭に左人差し指を少し立てて自分の身体に垂直に置くように指導します。また、点字を読む指の位置で行をたどるように、指先だけでなく、腕全体で追いかけて、いつも同じ場所で平行を保って触るように指導します。

Point 3 行頭への戻り方には、
パターン1：行末から、そのまま同じ行を同じ位置でたどりながら戻り、行頭を過ぎて（点を触れない所で）止まり、少し戻って行頭を確認して次行に移るパターン。
パターン2：行末で少し指先を下げて、下段（3，6）を触れながら行間を戻り、行頭を過ぎて（点を触れない所で）止まり、少し戻って行頭を確認して次行に移るパターン。
パターン3：行末で少し指先を下げて、下段（3，6）を触れながら行間を戻り、3分の2ぐらい戻ったあたりで、下行の上段を確認して行頭まで戻るパターン。（慣れてくれば、この方が行移しは速い。）
など、いくつかのパターンがあります。それぞれのパターンを試してみて、本人のやりやすい方法を選ぶようにします。ただし、行末からすぐ下行に下りる方法は、不適切であることを理由を説明し、（行末は不揃いであること）確認しておきます。行をたどっていく時と戻る時とでは、どちらかというとも戻り時の方が難しいので、気を抜かないように注意させます。

Point 4 頁の中程まで練習が進んだ時、触っている左手をわざと放してもらうようにします。これは、元の場所に戻ることが難しいことを理解してもらうために行います。そして、そういったことを避ける方法として、読む行の行頭で、左人差し指に右人差し指を添えさせ、右人差し指は行末まで、さっとたどり、そこで待機させる方法を指導します。また、これは読んでいる行の確認と、点字用紙を押さえる役目と2つの意味があることを確認しておきます。

Point 5 また、点字の行間隔について口頭で説明をしておきます。（片面書き、インターライン、インターポイントの違い等）。

Point 6 また、教材には、長い行、短い行が織り交ぜられていますが、長さについての本人の感覚を確認しておきます。

Point 7 教材14行目は、行頭に空きがある場合を経験させるために意図的に入れてあります。2行下までとばさないか注意して観察しておきます。行間のだいたいの感覚が理解されているかを判断します。



指導の実際：CD-ROM【Video 3】参照

2

きょー ざい 1

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15



長さの違い
Point 6

Point 7

3. 教材2 行たどり (2)

Point 1 教材1と同様ですが、スペースの入った行たどりの練習です。ここでも、指を縦に動かす必要はなく、横にたどらせます。スペースの入った行たどりであることを説明し、スペースの感覚に意識を集中させるよう指導します。また、スペースについて話をする中で、点字には「分かち書き」というルール（文法）があることにも触れておくようにします。

Point 2 教材には、1マス分と複数マス分のスペースをあけている部分があります。どちらが広いか質問してみます。また、そのスペースに「め (⠄)」が何個入るか質問します。

Point 3 教材の5行目～7行目には、「め (⠄)」の間に⠄や⠄の記号が入っていますが、何か違う形に触れたことが分かれば良しとします。記号の意味については触れる必要はありません。

Point 4 教材の11行目は、「め (⠄)」の字が、1マス、2マス、3マスと順に増えています。この行を使って、1文字ずつ追いかけ、1マスの感覚を鍛える練習ができます。

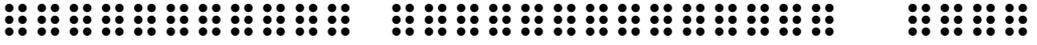
しかし、ここで必ずしも練習しなくてもよいと思われます。文字練習に入ったあとで、家での練習用として利用してもよいでしょう。



指導の実際：CD-ROM【Video 4】参照


 3


 きよー さい 2

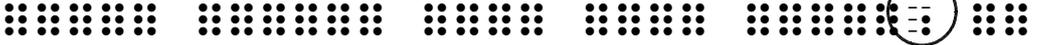
1  Point 2

2 

3 

4 

5  Point 3

6 

7 

8 

9 

10 

11  Point 4

12 

13

14

15

4. 教材3 点たどり

Point 1 垂直水平運動の準備としての点たどり教材です。文字通り点をたどらせます。

Point 2 第1行目の上段を触ってきて、途切れる所で、「下におりて、おりたら右に」と声をかけ、同様に下段を触ってきて途切れた所で、「上にあがって、あがったら右に」と3段分の垂直な上下動と平行運動を意識させる。

Point 3 点をたどった時の軌跡がどんな形になったか、机の上に右手で書いてもらい、考えさせてみることも大切です。

Point 4 5行目の「下、横、上、横、下、横…」の動きがなめらかにできるように練習します。1行目から5行目は繰り返し練習するのが良く、家での練習教材として利用させます。

Point 5 6行目以降は $\begin{matrix} \circ & \circ & \circ \\ \circ & \circ & \circ \\ \circ & \circ & \circ \end{matrix}$ が入った練習教材です。

Point 6 最下行は、垂直水平運動をさせながら、「め($\begin{matrix} \circ & \circ \\ \circ & \circ \end{matrix}$)」の字がいくつあるかを数えます。



指導の実際：CD-ROM【V i d e o 5】参照

4

きよー さい 3

1 Point 2

2

3

4

5 Point 4

6

7

8 Point 5

9

10 Point 6

11

12

13

14

15

5. 教材4「め」

ここから文字の練習。最初の字は「め（⠠⠠）」。

Point 1 触ってどんな形（8パターンのどれか→ステップ1のPoint1）かを確認させます。6点、横棒3段など表現は、その人なりに様々で良いでしょう。縦棒2列（左と右）の理解よりも、指の中央に全体が入るようにして、上から1段、2段、3段の理解の方が分かり易いです。

Point 2 空きスペースも意識しながら、「め、スペース、め、スペース、め、スペース、スペース、め、スペース、め、め、…」というように声に出して読みます。

6. 教材5「う」

Point 3 教材4の3行目行頭から、そのまま下に降りて「め」の字を確認させます。そして、次の新しい字は、どんな形かを質問します。

Point 4 横棒が上段か中断か下段かわかりにくかったら、め□う□め□□うめ□の、うめの所で判断してもらうようにします。「上の段の横棒 う」と確認します。

Point 5 「うめ」「ウメ」「梅」「ume」の書き方が、点字がなではこのようになることを確認します。

Point 6 読ませ方は、教材4の時と同様に「め、スペース、う、スペース、め、スペース、スペース、う、め・・・。」というように声に出して読みます。

7. 教材6「れ」

Point 7 教材5の3行目行頭から、そのまま下において「め」の字を確認させます。そして、次の新しい字は、どんな形かを質問します。以下、教材7～11まで同様の手順です。読ませ方も同様ですが、スペースを音読させるかどうかは、教材7あたりを一つの目安として考えます。スペースの意識や感覚が定着できているようであれば、スペースの音読は止め、文字のみを音読させるようにします。

Point 8 「れ（⠠⠠）」の形が、大きい丸、四角、4点、横棒2段、たんぼの田の字など、様々に表現されますが、本人が表現した、その形が、「レモンのれ」と認識していきます。

Point 9 2行目で「うれめ」と1段ずつ段が増えているのを確認していきます。



指導の実際：CD-ROM【Video 6】参照



5



きよー ざい 4 ーめー

1
2
3

め め め め め め め め め め め め め め
 め め め め め め め め め め め め め め
 め め め め め め め め め め め め め め

Point 3



きよー ざい 5 ーうー

1
2
3

め う め う め う め う め う め う め う め
 め め め め め め め め め め め め め め
 め め め め め め め め め め め め め め

Point 4

Point 7



きよー ざい 6 ーれー

1
2
3

め れ め れ め れ め れ め れ め れ め れ
 め れ め れ め れ め れ め れ め れ め れ
 め れ め れ め れ め れ め れ め れ め れ

Point 9

8. 教材7「ふ」

Point 1 間のあいた横棒2段、上の段と下の段を確認させます。

Point 2 「真ん中の棒のぬけたのは『ふ』、『ふ』ぬけ」と覚えると面白いでしょう。

9. 教材8「に」

Point 3 長い縦棒であることはすぐわかりますが、この縦棒が左の列か右の列かの感覚が大切です。「め」と「め」の間にある縦棒の前後の間隔を確認させます。

Point 4 左側の長い縦棒は「虹の『に』」というように覚えます。(一例です。)

Point 5 2行目の「 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 」と「 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ 」の間隔の違いに注意を向けさせます。 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ (めに) は $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ (め) と勘違いしたり、 $\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot & \cdot \end{smallmatrix}$ (めめ) と勘違いしやすいので注意が必要です。

10. 教材9「あ」

Point 6 左上の点一つ「あ」。

Point 7 今まで学習してきた文字と「あ」の文字との組み合わせは、例示する言葉として意味のある言葉が作りやすいので、その意味をつかみながら発音させるようにします。



指導の実際：CD-ROM【Video 7】参照

きよー ざい 7 ふ

1

め ふ め ふれ ふふ ふめ うふふ れふ めふ ← Point 1

2

ふうふ ふれ ふめ ふうう うれふ れふめ めれふ

3

うれめふ ふれふれ ふめふめ うふふふ め ふ め

きよー ざい 8 に

1

め に め うに にれ ふに うめに にれ ににに ← Point 3

2

にめ めに うに にれ にふ れふに うにに ← Point 5

3

にれに ふうふに にめれ ににめ にめう め に め

きよー ざい 9 あ

1

め あ め あめ あう あに あれ にあう うあ

2

あめに あう あれ あに れあ めあ ふあ あれあ

3

ああれ あふあふ あめあめ あれあれ め あ め

11. 教材10「い」

Point 1 左側縦2点、「い」。

Point 2 2行目の「いれい」、「うれい」の語尾の「い」の字が読みにくいので注意が必要です。左側1列の字に対しての指の送りを確実にするよう指導します。

Point 3 3行目の行頭で、「あいに」と点が1点ずつ増える形を確認させます。

12. 教材11「な」

Point 4 左側2点、上の点と下の点。真ん中の点のない字「な」。

評 価

Point 5 ステップ1の最後に、ここで学習した「うれめふ あいにな」の触知覚の評価と、形と名前の記憶力の評価をします。また、「めめめめ めめめめ」のところで「め」を数えさせ、一文字の感覚の評価をします。

Point 6 また、同時に、指の位置、指の動きもチェックします。指先だけでなく、手首、腕、座り方など全体の姿勢も確認することが大切です。



指導の実際：CD-ROM【V i d e o 8】参照

7

7

きよー ざい 10 い

きよー ざい 10 い

1 め い め あい うい めい ふい いう いに

2 いれい うれい いいに ふいに いふ にいに れいに

Point 2

3 あいに ふいに ふめい いいあい いいめ め い め

Point 3

きよー ざい 11 な

きよー ざい 11 な

1 め な め あな なに ない なれ いな なあれ

2 ふなれ ないふ あいなめ ななめ なれない いないな

3 なあなあ ないない なになに ふなふな め な め

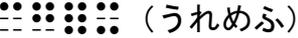
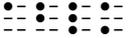
うれめふ あいにな

うれめふ あいにな

めめめめ めめめめ

めめめめ めめめめ

【ステップ2】

1. 教材12「 (うれめふ)  (あいにな)」の復習

Point 1 8文字を使った短い文章や単語を読む教材です。単語については、先に「次は○文字」とヒントを出しても良いでしょう。

Point 2 指おくりと文字の定着を評価します。

Point 3 文字間に混同があるようであれば、もう1度練習します。「う・れ・め・ふ」「あ・い・に・な」を繰り返し声に出して覚えるとともに、握りこぶしを作って机の上に点の配列を再生しながら確認します。また、時間のある時に、膝の上や、空中に配列を再生して練習するように伝えます。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

きよー ざい 1 2

1 ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
う れ め ふ あ い に な

2 ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠
あれ なあに うめ

3 ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠
あめに あう

4 ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠
あにに いう

5 ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠
あめ あめ ふれ ふれ

6 ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠
うれしい ふめい あにめ

7 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠
ふれあい ふにあい なれあい あいいれない

8 ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠
いな ふな あいなめ うに

9 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠
いれいな めいれい

10 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠
いいあう あにに めい

11

12

13

14

15

教材及び指導上の注意事項

『指導を始める前に』と重なる部分もありますが、ここでもう一度、教材及び指導上の注意事項について記します。

●今までは比較的簡単で、これからが難しくなります。飽きないように、嫌にならないように、また、挑戦の気持ちを萎えさせないように、工夫していきます。指導者の集中力が解けると学習者も集中力がそがれ、読めなくなってしまうものです。点字の練習は集中力が大切になります。はじめは疲れてしまい、集中力が持続しませんが、少しずつ長くして慣れさせていきましょう。

●教材は、

- ① 1行目に前回までに練習した文字の案内
- ② 2行目に新しく練習する文字の紹介

となっています。新出文字は、まず、⠠「め」と⠠「め」の間に挿んで紹介し、ついで、縦棒⠠「に」との比較で紹介します。そして、その後5回ほど出てくるように作成してあります。

「め」の字で自分の指の向き等を確認し、新出文字の点の集合を考えさせます。「め」と「め」の間でわかりにくい時は、「に」の所で比較させます。そして、その後、新出文字の点の集まりを頭に描きながら触って、形と名前を結びつけさせます。

●3行目からは単語練習になっていますが、最初は2文字の言葉（前か後ろに新出文字が入る）。ついで、3文字の言葉というように作られています。3文字の言葉で真ん中の字が読みにくい時は、後ろの文字を先に読んで2文字目を予測するよう促します。予測こそが中途失明者の点字読み速度の向上につながっていきます。単語練習の後は単文の構成になっています。

●必ずしも全ての練習が必要という訳ではありません。文字練習は適宜にして、単文練習を主に考えても良いでしょう。文字の練習を主にすると、字を読むために点を拾うことばかりが先だってしまい、1字が読めないと先に進めないという読みになってしまいます。日本語の文章を読むという前提に立てば、点のはっきりわからなくても字として認識し、1字が読めなくても3文字の言葉として理解して文章を読むことはできます。今までの読書経験を総動員して

指だけでなく頭でも読むという読み方を勧めます。

●点の集合の認識は、まず、上段は点か横棒かを判断し、2段目におりて点か棒か、3段目は点か棒かというように3段階で考えます。3段目までいったら上段に戻り、わからなければもう1度、上から下に確認し、下から上に戻って1文字分右横にスライドさせます。この1文字分が難しいので指導者によるフィードバックが必要です。また、この横へのスライドの時に、指が斜めになっていると2字目から1字目に引いたり、1字目から2字目に引いたりしてしまいますので、自分の身体に垂直になるように注意させます。

●連続文字は読みにくいから「一マス空けで練習」というのは意味をなしません。「点字は凸の点を触って読むもの」という意識を誰もが持っていますが、実は、「点と点の隙間」こそが大事であり、隙間を読むのが点の集合の認識に大きな手がかりとなります。⠠（う）と⠠（め）の間の隙間は感じませんが、⠠（あ）と⠠（め）の間の隙間は感じます。学習者に点の位置を言っては練習になりません。この隙間の有無を手がかりにして点の集合を認識するよう指導します。

●新出文字の認識は、今まで出てきた文字との違いで確認します。そのためには、出てきた順番、その形をしっかりと記憶させるように注意します。不確かだと文字の混同につながり、うまく読めず、指は余分の動きをしますますわからなくなるといった状況を生み出すことになってしまいます。

●点字の読み指導は、一人一人の指の動きを見て、指導者が的確なフィードバックを繰り返すことです。指がうまく点を触り、うまく動いた時、点字は読めるものです。つまり、指の中央に点を入れて、真っ直ぐにひいて、きちんと横に動いてという垂直水平運動の繰り返しであり、この垂直水平運動を見ることが指導であると考えています。

●ここから先は、1ページに2つの新出文字が出てくる2文字教材が掲載されています。1ページに1つの新出文字が出てくる1文字教材もあり、教材資料としてフロッピーに入れてありますので、時間に余裕があり、じっくり取り組みたい場合や、自習教材（宿題）として活用すると良いでしょう。

3. 教材13「た」

Point 1 長い縦棒「に」の字の真ん中の点が右に飛び出し、左、右、左と右向きの動きのある字として紹介します。

4. 教材13「き」

Point 2 長い縦棒「に」の字の下の点が右に飛び出し、左、左、右下という動きとして紹介します。



指導の実際：CD-ROM【Video 9】参照

きよー ざい 1 3 _た き_

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

う れ め ふ あ い に な
 め た め に た た た た た た
 たい ふた たに たな あなた うれた あたい
 いたい めに あう
 あな あいた ふた
 たたいた あなた
 あいに ないた あなた
 うた うたいたい



め き め に き き き き き
 きれ きめ たき きふ いき きれい いきいき
 ためいき うれい なきたい あき
 きめた きめた あなたに きめた
 きれいな あなたに あいに きた
 あなたに ききたい
 あきれた あなたに あきあき

5. 教材14「す」

Point 1 右側優先の文字で、右列に3点がそろっていて刺激が強いため、左上の点が見にくく、次の文字と重ねたくなるので注意がいらします。前の字から横に動いた時、上段が横棒であることをきちんと把握してから読むように指導します。

6. 教材14「り」

Point 2 上2段のみで、「れ」と比べて右上が欠けている不安定な文字です。同じ左2点、右1点でも「き」とは明らかに違います。

【ステップ3】

1. 教材15「さ」

Point 1 長い縦棒「に」の字の下2点が右に飛び出し、左、右、右と右に傾いて下におりる形。「に」「た」「き」「さ」は単独の形としては特徴的であるが、点字は触り方によっては「た」も「き」も「さ」も同じになってしまいます。指導者がこのことを意識して、触り方を良く見ることが大切です。

2. 教材15「け」

Point 2 複雑な形でなかなかわかりにくいです。「上の方はごちゃごちゃしているが、右下に一つ点が離れてある」という感じで、右下の点に特徴があります。

3. 教材16「え」

Point 1 縦2点「い」、横棒「う」を重ねた形として紹介。「れ」と比べて右下が欠けています。教材7行目「えきえ」の所で、仮名遣いの違いの説明をします。

4. 教材16「み」

Point 2 たくさん点があります。「め」と比べて1点たりないことに着目させます。「右上の点のないのは『み』」と覚えます。

【ステップ4】

1. 教材17「は」

Point 1 わかりやすい形です。上が点、下が棒。「ふ」と比べて右上の点がないことに着目させます。

2. 教材17「こ」

Point 2 ここで初めて右から始まる字が登場します。初心者は点字を読む時、点のある所で読もうとする傾向が強いので、右から始まる字は次の字と重ねて触ってしまいやすいのです。

ここまで、上段だけに注目し文字のつながりを見てみると、

左、左 (⠠⠠) 左、横棒 (⠠⠠) 横棒、左 (⠠⠠) ですが、

右から始まる字が加わると、

左、右 (⠠⠠) 横棒、右 (⠠⠠) 右、左 (⠠⠠) 右、横棒 (⠠⠠)

と変化が多くなります。

左、左 (⠠⠠) の場合と左、右 (⠠⠠) の隙間の広さの違い、右、左 (⠠⠠) が横棒にならないことなど注意を要します。点のあるところでよむのではなく、隙間を読むことの大事さを指導者も学習者も理解する必要があります。

Point 3 「た」と逆の右、左、右の向き。ひらがなの「く」の形。この後、しばらく右から始まる字はでてこないで、右から始まる字は「こ」と覚えます。

3. 教材18「ら」

Point 1

2点が左から右に傾いていますので、指が傾いていたり、用紙が傾いていると「い」になってしまいます。用紙をまっすぐに置いて、まっすぐ触るように指導します。

4. 教材18「ち」

Point 2

「に」に右の真ん中の点がついた、「り」の左下に点加わった形ですが、右向きの三角形が座っているようで形がとりにくい字です。難しい字の一つです。

きよー ざい 18 ーら ちー

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

う れ め ふ あ い に な た き す り さ け え み

は こ

め ら め に ら ら ら ら ら

な ら た ら り ら さ ら こ ら は ら え ら

え ら い み ら い け ら い あ ら れ さ ら り

す き な は な き ら い な は な

ら い め い き こ え さ け ら れ な い あ め ふ り

き ら き ら き ら め い た み ら い

.....

め ち め に ち ち ち ち ち

さ ち ち え ふ ち み ち ち ち い た ち

は た ち あ い ち こ ち こ ち ち ら ち ら ち い ち い

あ い に み ち た り た ふ た り

ち い さ い は ち に う え た は な

み ち み ち さ い た ち い さ な は な

は た ち に な れ た ふ た り に み ら い

【ステップ5】

1. 教材19「し」

Point1 左、横棒、右下と左から右に流れる字です。前の文字、後ろの文字との関連で左、左、右の「き」、左、右、右の「さ」の字と混同しやすいので注意が必要です。

2. 教材19「く」

Point2 上が横棒、下が点で右。比較的やさしい字です。

3. 教材20「つ」

Point 1 半分近くを学習してきて、これからは左右が反対、上下が回転した文字が多くなり、形をとるのはやさしくなるとは思いますが、その分、形と名前を混同しないようにしっかり記憶していく必要があります。

Point 2 横棒、右、左で連続するとひらがなの「つ」の形に似ている字。「け」の逆ですが、逆は意識しなくていいでしょう。意識すると逆文字として読んでしまいます。

Point 3 練習文例に「白い杖」が出てきます。避けたい話題かも知れませんが、「こんなことありましたか」のように口火をきって、本人および社会の障害受容に関連して話しをしていくのは大事なことです。あらためてするよりも、さりげなく、こうした例文を通してできるのが良いと思います。

4. 教材20「お」

Point 4 右から始まる字。上2段。これで「あいうえお」が完成します。

【ステップ6】

1. 教材21「の」

Point 1 今までの学習してきた文字で例文を考える時、「〇〇〇に」の形しかできませんでしたが、ここで「の」を学習することによって、「〇〇〇の〇〇」という文章ができるようになります。

2. 教材21「ろ」

Point 2 右から始まる上2段。「れ」と比べて左上が欠けています。「え」「れ」「り」「ろ」が混同しないように注意します。

3. 教材 2 2 「か」

Point 1 左上と右下。指、紙の位置によっては「な」と読み間違えるので注意が必要です。

4. 教材 2 2 「も」

Point 2 点が沢山の文字。「め」と比べて左上が欠けています。

【ステップ7】

1. 教材23「ま」

Point 1 左、右、下横棒の字。指の傾きによっては「た」や「さ」になってしまうので注意が必要です。

2. 教材23「ん」

Point 2 上の段がないので、横に動いた時、点に触れなければ「ん」と判断できます。しかし、点のある所まで動いてしまい、とばしてしまいやすいので1文字分の移動に集中するように指導します。

3. 教材24「と」

Point 1 右から始まり、横棒、左。右から左に流れる字です。2段目が横棒であることを確認しないと「の」になってしまうので注意が必要です。
「○○○に」「○○○の」そして、「○○○と○○」という文章が書けるようになります。

4. 教材24「ぬ」

Point 2 上横棒、下左点というやさしい字です。
15行目の「アイヌに伝えられた麓の下の神様の話」、麓の下の神様は、コロボツクル。

きよー ざい 24 と ぬ

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

う れ め ふ あ い に な た き す り さ け え み
 は こ ら ち し く つ お の ろ か も ま ん
 め と め に と と と と と と
 も と ま と と し と ら と こ す と と ま と
 あ か い い と と し ろ い い と と ふ と い い と
 と ら と ら い お ん き り ん と し ま う ま
 ま え の と ら う し ろ の お お か み
 ふ た つ と し う え い と し い か た に

め め め に め め め め め め め
 き め め し め ま ち た め き け め き め り え
 め け め あ い め め い も の き め い と こ め か あ め
 め き あ し さ し あ し あ き す の あ し あ と
 あ さ い め ま と ふ か い め ま
 あ い め に つ た え ら れ た ふ き の し た の か み さ ま の は な し
 め け た お す た め き と め け め の な い め す た め き

【ステップ8】

1. 教材25「せ」

Point 1 「め」と比較して左下が欠ける字です。

2. 教材25「る」

Point 2 上横棒、右の上2段の字。「り、る、え、れ、ろ」の混同に注意が必要です。

3. 教材 26 「ね」

Point 1 上横棒、左全部。「す」の逆向きの字。

4. 教材 26 「へ」

Point 2 真ん中の右点が欠けている字。

【ステップ9】

1. 教材27「わ」

Point 1 1点、「ㇿ」(あ)、下がり「ㇿ」(わ)。仮名づかいについて指導します。

2. 教材27「ひ」

Point 2 左、左、下横棒の字。

3. 教材28「を」

Point 1 「を」(お) 下がり「を」(を)。助詞の『を』の仮名づかいは変わらない。

4. 教材28「そ」

Point 2 左真ん中、右全部。『ち』より形がつかみやすい。

15行目「そらの あお」は、若山牧水の「白鳥は悲しからずや空の青海の青にも染まずただよう」より。例文をきっかけにさまざまな話をする 것도大切です。

【ステップ10】

1. 教材29「ゆ」

Point 1 右、下横棒の字。

2. 教材29「て」

Point 2 右下の欠けた字。〇〇で口いる（いた）の『て』の後のスペースについて指導します。

3. 教材30「よ」

Point 1 右、右、左。「の」との混同に注意が必要です。

4. 教材30「む」

Point 2 左真ん中の点が欠けている字。

教材15行目、「われ なきぬれて」は、石川啄木の「東海の小島の磯の白砂に
われ泣きぬれて蟹とたわむる」より。

【ステップ 1 1】

1. 教材 3 1 「ほ」

Point 1 右、左、下横棒。右から始まる字は、「おこそとのほもろゆよ」

2. 教材 3 1 「や」

Point 2 右上から左下への大きい斜め。右上の点の確実な把握に注意が必要です。

3. 教材 3 2 「っ」

Point 1 促音、小さい「っ」。左の真ん中の点。

4. 教材 3 2 「長音」

Point 2 長音、真ん中の横棒。長音の説明をします。

きよー ざい 3 2 ー つ ー

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

う れ め ふ あ い に な た き す り さ け え み
 は こ ら ち し く つ お の ろ か も ま ん と ぬ
 せ る ね へ わ ひ を そ ゆ て よ む ほ や
 め っ め にっ っ っ っ っ
 い き い っ き ま て ま っ て ね こ ね っ こ
 ま ち え い っ て き っ て を か っ て き て く れ
 い っ し ん ふ ら ん に や り な さ い
 と っ く ん に よ り う ま く な っ た
 お も い や り と か っ き の あ る ま ち を つ く る
 め ー め にー ー ー ー ー ー
 こ ら こ ー ら た ら た ー ら か ら か ー ら
 こ ー ひ ー せ ー た ー ふ ー と ー ひ こ ー き と ー ふ
 き の ー わ た し わ こ ー え ん え さ ん さ く に い っ た
 お ち ち を す う か わ い い こ
 こ ー い う ふ ー に や る と う ま く い く と お も う

【ステップ 1 2】

教材 3 3 「読み方」

清音だけの文章で、良く知られている「うらしまたろう」の話を 읽습니다。話を思い出しながら推測をしながら読むよう指導します。句点の紹介も併せてします。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

きょー ざい 33

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

うらしま たろー

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

むかし むかし うらしま たろーわ むらの こたちに

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

わるさを されて いた かわいそーな かめを たすけて

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

やりました。 かめわ うれしくて うれしくて たすけられた

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

おれいに うらしま たろーを ふかい ふかい うみの その

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

おとひめさまの おしろに あんない しました。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

おとひめさまの おしろわ あおい うみの そこに しろく

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

ひかり えにも かけないよーな うつくしさ。 うらしま

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

たろーわ その うつくしさに めを みはって しまいました。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

それから うらしま たろーわ おとひめさまから かめを

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

たすけた おれいに たくさんの おいしい ものや たのしい

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

ことの おもてなしを うけました。 うらしま たろーわ とても

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

たのしくて うれしくて つきひの たつのも わすれて いました。

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

しかし ある ひ うらしま たろーわ なつかしい はまの

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

いえを おもい かえりたく になりました。 おとひめさまに

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

おはなしを して いとまを こい はまに かえる ことに

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

なりました。

はまに かえった うらしま たろ一わ ゆめかと
おもいました。 みる けしきも いきかう かおも あの ころと
ことなり して いる ひとわ ひとりも いません。 うらしま
たろ一わ いま みる けしきわ ゆめか うつつかと かなしく
おもい おとひめさまの おしろを おもいおこしました。
おとひめさまからわ たからの はこを もらって いました。
その たからの はこわ けっして あけてわ いけないと
おとひめさまから いわれて いました。 しかし うらしま
たろ一わ その たからの はこを あけて みたくて あけて
みたくて たまらなく なりました。 と一と一 こらえきれなく
なって あけて しまいました。
すると うらしま たろ一わ はこの なかからの しろい
けむりに つつまれて あっと いう まに はくはつの おきな
なって しまいました。 いくとしつきを としを とる こと
なく くらした おとひめさまの おしろわ まほ一の ときの
おしろ。 うらしま たろ一わ はまに なきふしました。

.....

以上で清音の練習が終わります。

- ◆濁音、拗音、数字、外国語、特殊音などは、点の弁別というより、頭での組み立てとして練習していきます。
- ◆濁音、拗音の終了後は、文章読みを練習し、読み速度を早めるようにします。
- ◆書き方については、濁音、拗音を練習した後で説明し、点字器での筆記、タイプライター等の紹介をします。
- ◆数字、アルファベット、特殊音、文章記号等は、読み方練習の中で出てきた順に説明するとともに、読み速度が上がったところで全体説明をします。